

●近代日本の確立に貢献した海外実業練習生たちの詳細な報告書●

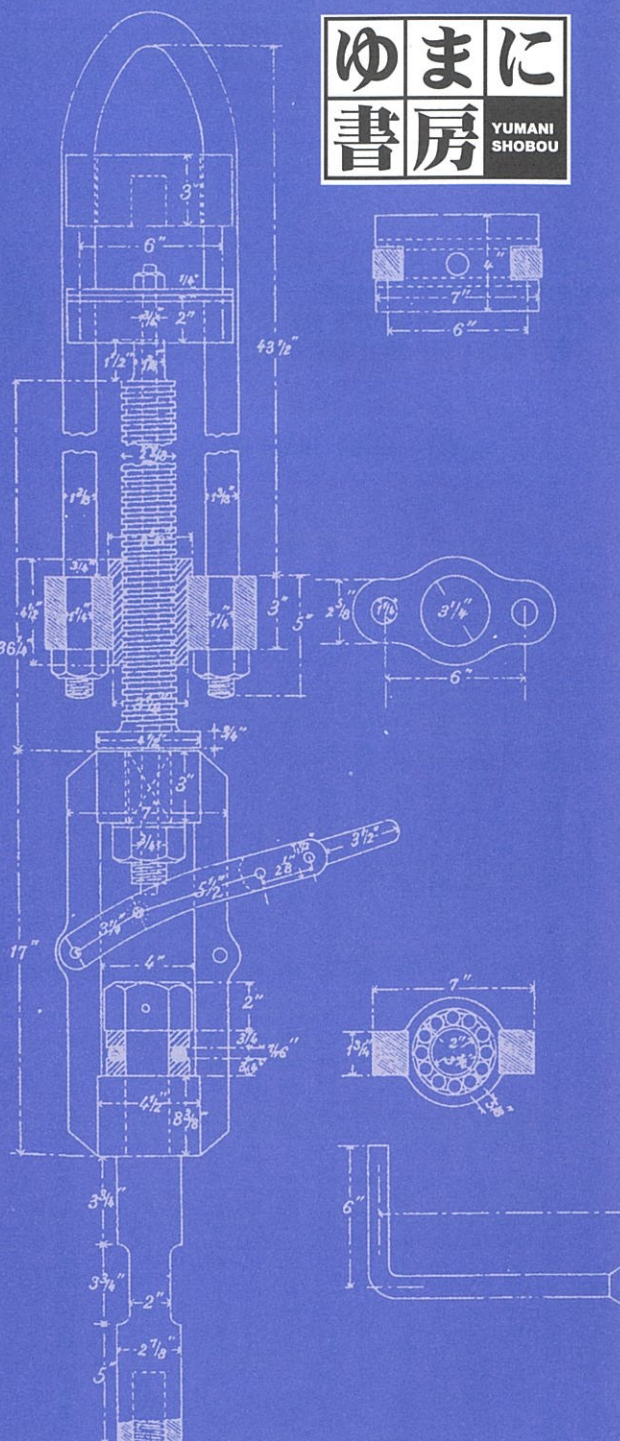
「海外実業練習生」報告 1 農商務省商工局臨時報告 全13巻

▼監修 松村 敏

神奈川大学経済学部教授

▼編集 田島奈都子

実践女子大学講師



一八九七（明治三十）年、日清戦争後の貿易拡張計画の一環として、農商務省は、海外実業練習生派遣制度を創設。審査によって選抜された志願者に三年にわたり一定の補助金を支給した上で海外に滞在させるというもので、一九二八（昭和三）年までの三〇年間継続されました。練習生の合計は八五七名。美術工芸、株式取引、製鉄、農業など五〇におよびます。本企画は、彼らに義務づけられた報告を掲載した専門誌を復刻集成するものです。経済・工業・農業・芸術等々、近代日本の源流が集約されている最も基礎的な資料です。

「海外実業練習生」報告

【監修】松村 敏 神奈川大学経済学部教授
【編集】田島奈都子 実践女子大学講師

●『「海外実業練習生」報告』の構成

- 1 ◆農商務省商工局臨時報告 全13巻
揃定価：本体182,000円＋税（各巻定価：本体14,000円＋税）
A5判上製／函入り 2002年2月刊行 ISBN4-8433-0504-9 C3360
- 第1巻◆明治30年（第1冊～第5冊） ISBN4-8433-0505-7
第2巻◆明治31年（第1冊） ISBN4-8433-0506-5
明治32年（第1冊～第8冊）
第3巻◆明治33年（第1冊～第7冊） ISBN4-8433-0507-3
第4巻◆明治33年（第8冊～第21冊） ISBN4-8433-0508-1
第5巻◆明治34年（第1冊～第6冊） ISBN4-8433-0509-X
第6巻◆明治34年（第7冊～第13冊） ISBN4-8433-0510-3
第7巻◆明治34年（第14冊～第22冊） ISBN4-8433-0511-1
第8巻◆明治35年（第1冊～第11冊） ISBN4-8433-0512-X
第9巻◆明治35年（第12冊～第19冊） ISBN4-8433-0513-8
第10巻◆明治36年（第1冊～第5冊） ISBN4-8433-0514-6
第11巻◆明治36年（第6冊～第12冊） ISBN4-8433-0515-4
第12巻◆明治37年（第1冊～第6冊） ISBN4-8433-0516-2
第13巻◆明治37年（第7冊～第12冊） ISBN4-8433-0517-0
- 2 ◆農商務省商工彙報 附CD-ROM
3 ◆農商務省商品陳列館報告 附CD-ROM
4 ◆貿易時報 附CD-ROM
附・農商務省海外実業練習案内
（大正7年8月1日発行・森久彦著・内外商工時報発行所）
- 5 ◆内外商工時報 附CD-ROM
附・1924年版「海外実業練習生」名簿

第一 羽二重ノ需用ト供給トノ關係
日本羽二重ハ歐米各國都一 般ニ流行スレトモ米國ニ於テハ支那絹僅少ニシテ我カ羽二重ノ占有ト云テ可ナラシカ
歐洲各國ニ於テハ支那絹大半ヲ占メ我カ羽二重ト譽ホ價格均アシ恐ルヘキ大敵ナリ
歐洲ヘ向ケ輸出スル我羽二重ノ大半ハ佛國馬耳塞港ヨリ里昂ヘ入リ全所ニ於テ仕上ケノ後歐米各國ヘ再輸出スルモノナリ
里昂商工會議所ニ至リ販賣タルニ全市ヘ日本羽二重ノ入ル高ハ一千八百九十五年即チ我明治二十八年ニ於テ拾貳萬圓基即チ參萬貳千貳百圓ナリ支那絹ハ拾五萬圓基即チ四萬貳百圓拾貳圓ニシテ凡ハ總額高ノ多キヲ占ム
是ニ由テ之ヲ觀レハ羽二重ノ製造タルヤ價格ヲ低廉ニシ而シテ製造スルコトナクハ時シテ流行ニ伴レ供給ノ度合ヲ失スルアルモ決シテ需用ノ途ヲ塞クノ患ナシ
第二 羽二重ノ用途
羽二重ノ用途ハ最も廣シ平地ハ主トシテ手巾トナセトモ精製ナルモノハ種々染色シ形ヲ置キ婦人ノ

歐米絹織物狀況視察報告

村野文次郎

関連企画のご案内

社史で見る日本経済史

■植民地編・第2回配本・全10巻

【監修】波形昭一／木村健二／須永徳武
戦後の日本経済史を研究するうえで、また在留邦人の実態を具体的に知るうえで欠かせない基本資料。戦前の主要植民地企業の社史を網羅したはじめての集成。

●揃定価：本体165,000円＋税

産業別「会社年表」総覧 全40巻

【編集協力】神奈川県立川崎図書館 様々な産業に関わる主要な会社や企業の年表を集成。製糸・鉄鉱からIT産業まで、日本の産業構造の興隆・発展・変遷が一目瞭然に分かる産業史年表の決定版！ 全巻堂々完結！ 第8回配本・全5巻（第36巻●不動産業／第37巻●サービス業1／第38巻●サービス業2／第39巻●公企業／第40巻●追補）

●平均単価：本体16,000円＋税

■シリーズ経営者の群像

人物で読む日本経済史 全14巻・別巻1

由井常彦監修／財団法人日本経営史研究所協力
所蔵機関に限られており、市場でも目にすることができない貴重な「伝記」の中から、史料価値が認められる水準の極めて高い「名著」を精選。別巻全2巻には、『財界物故傑物伝』上下巻と解題を収録。

●揃定価：本体317,000円＋税

ゆまに書房 YUMANI SHOBOU

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-7-6
TEL.03 (5296) 0491
FAX.03 (5296) 0493
http://www.yumani.co.jp/
e-mail eigyou@yumani.co.jp

■特におすすめしたい方

経済史・農業史・移民史・美術史・国際関係・異文化交流研究者、各大学図書館、公共図書館など。

ご注文書

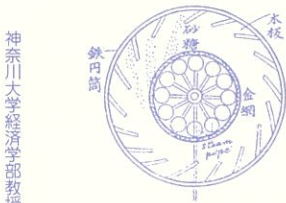
ゆまに書房 Tel.03 (5296) 0491/Fax.03 (5296) 0493 年 月
「海外実業練習生」報告1 農商務省商工局臨時報告 全13巻
●揃定価：本体182,000円＋税 ISBN4-8433-0504-9 C3360 セット

お名前
住所

TEL ()

取扱店

※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。



神奈川大学経済学部教授

松村 敏

今回刊行する資料は、一八九六（明治二九）年以降、政府が創設した海外実業練習生制度による実業練習生の報告書を掲載した『農商務省商工局臨時報告』（一八九七～一九〇五年）である。

海外実業練習生制度とは、日清戦後の貿易拡張政策の一環として農商務省が創設したもので、一九二八（昭和三）年まで約三〇年間継続され、総計八五七名の練習生が海外に派遣された。すなわち農商務省は、若く有能な人材を、通常三年間、海外各地に派遣し、実地に各種実業をめぐる技術習得や、需給状況・嗜好・商取引慣習などの情報収集を行わせ、これらの海外実業事情に精通し技能を習得した人材を育成し、彼らの報告書等による情報とともに、日本の海外貿易の発展に役立てることを目的としてこの制度を設けた。

練習生は、地方の各種同業組合から推薦された者が多かったが、専門学校等高等教育機関を卒業したエリートも相当多かった。彼らはその後、商社員・技術者・自営業者・官吏・教員・作家などになって国内外で活躍した。そして彼らの中から、各分野できわめて重要な業績・足跡を残した者が数多くあらわれたのである。もともと後述のように、従来この海外実業練習生制度は歴史学界

などでもあまり知られてこなかったため、練習生が後年社会的に活躍しきわめて著名な人物になった場合でも、若い時期に欧米等に留学したことはよく知られていても、この練習生制度によって海外に派遣されたことや、彼らの練習科目、提出した報告書の内容などはほとんど知られていないのである。いずれにせよ、この実業練習生制度はその後の日本の貿易や技術の発展にとどまらず、近代日本の発展に多方面から大きく貢献したものと評価されるべきものである。

練習生の練習科目はきわめて多方面にわたり、貿易業（雑貨・生糸・織物・海産物など）、各種工業品製造（機械・薬品・電気・ガス器具・製鉄・造船・人造肥料等々）、農業園芸牧畜業、農産加工業から、商品株式取引業、各種組合・商業機関の実務、意匠図案など、要するに貿易品を中心とした各産業の製作技術や取引実務から美術工芸などにわたる幅広い分野において研修させている。派遣先は、欧米が中心で、アメリカが最も多く、さらにイギリス・フランス・ドイツなどがめだっているが、アジア地域にも少なくない数の練習生が派遣された。練習生には頻繁な報告書提出が義務づけられ、そのうち有用と思われたものが『農商務省商工局臨時報告』などに掲載された。これが本シリーズ『海外実業練習生』報告である。

これらの報告書から学べることは多様である。当時の各種商品をめぐる海外市場の動向、海外市場における日本製品の位置や問題点、技術・意匠・取引慣行等を含めた海外の各産業の実態、貿易港などの商工業や商人の動向等が報告書の主たる調査内容となっているが、さらに各国の産業・貿易政策やそれらの列国中における位置、またそもそも海外に派遣された当時の若く有能な各分野の練習生の研修ぶりや彼らがそこで出会った異質な文化な

ど、明治末から大正・昭和の各分野においてしばしば指導的な役割を果たした人々の若い日の経験が綴られてもいるはずである。

もともと、練習生が工場や商社などを自分の足で回って情報を得ようとしているようすが各報告書からも窺われるが、報告書作成の際には、収集した外国文献に頼った部分も少なくなかったかもしれない。したがって利用に当たっては、そうした点につき他の資料との突き合わせなどによる資料批判も当然必要であろう。

いずれにせよこの報告書は、広く国際関係の動向の中でいかにして日本の近代化が展開したかを考える場合に重要な資料を提供しており、したがって貿易・産業発展をめぐる（欧米・アジアを含む）経済史、日本近代史、地理地誌、異文化交流、国際関係史、美術工芸史など広範な分野の研究に有用と思われる。

この資料の原本は、全国に散在し、これまで一つの機関で閲覧することができなかった。また従来からこの実業練習生制度に注目していた研究者も存在していたが、一般には最近までこの制度の重要性に注意が向けられることは甚だ少なかった。しかし近年、いくつかの分野の歴史的研究であらためて注目されるようになり、右のようなこの制度の内容と意義が次第に明らかにされつつある。こうした事情から、実業練習生による膨大な量の報告書は、まだ各分野の研究に十分に利用されてきたとはいえず、その本格的な利用はこれからといえる。今後、一九〇五年以降の練習生報告を掲載した資料、すなわち『農商務省商工彙報』『貿易時報』『内外商工時報』『農商務省陳列館報告』などの復刻版を順次刊行する予定であり、『農商務省商工局臨時報告』の復刻とともに、これらの刊行によって利用が大幅に容易になり各種研究に大いに活用されることを期待したい。

本書を推薦します

『農商務省商工局臨時報告』を通して私たちは若き日の実業練習生によって欧米各国の最新技術がどう評価され、その導入可能性がいかに判断されたのか、また彼らの目にアジア各国・各地域の商慣習・商況がどのように映じ、その理解に基づいて彼らが提言した輸出振興策がいかなる内容であったのかを知ることができる。近代日本経済史・経営史研究者だけでなく、近代日本の対外認識の変遷に関心を有するすべての読者に本資料集を薦めたい。

近代日本の対外認識の変遷 に関心を持つすべての方に

大阪大学大学院経済学研究科教授

沢井 実

この度株式会社ゆまに書房より『農商務省商工局臨時報告』（『海外実業練習生』報告一、全一三巻）が刊行される。農商務省は海外実業練習生に報告の提出を義務づけたが、その報告を収録したのが本資料集である。

量的には地方の同業組合等の推薦によって実業練習生になった者が多かったが、高等教育を終えた者もかなりおり、例えば一八八六～一九〇〇年に東京高等工業学校を卒業し、一九〇〇～一四年に海外に滞在した技術者一三名中三六名は実業練習生であった。その中には多田成政、橋本増次郎、岸山憲二といった織機・自動車・鉄道車両等の分野で後に大きな足跡を残すことになる人物もいた。一九一四年までに海外に派遣された実業練習生総数は五五二名に達し、その内訳は商業を練習する者が二六八名、機械・化学・金属精錬が一二一名、染織・飲食物・雑工業が一一名、農林・畜産・園芸・水産が四三名、電気・瓦斯が九名であった。ここからもうかがわれるように海外実業練習生制度の狙いは商社員の育成だけではなく、在来産業・軽工業の近代化から重化学工業の推進まできわめて広範囲に及んだ。

『農商務省商工局臨時報告』を通して私たちは若き日の実業練習生によって欧米各国の最新技術がどう評価され、その導入可能性がいかに判断されたのか、また彼らの目にアジア各国・各地域の商慣習・商況がどのように映じ、その理解に基づいて彼らが提言した輸出振興策がいかなる内容であったのかを知ることができる。近代日本経済史・経営史研究者だけでなく、近代日本の対外認識の変遷に関心を有するすべての読者に本資料集を薦めたい。

幅広い分野の研究者の方々に おすすめします

東京大学工学部農学生命科学研究所 助教

松本 武祝

十九世紀末以後の日本の対外経済関係研究において、外務省通商局『通商彙纂』は同時代の著名な必読文献である。同じ時期、農商務省は、海外実業練習生からの報告を収録して『農商務省商工局臨時報告』を刊行している。すでに一部の研究者により『通商彙纂』に比肩する文献として注目されてきてはいたが、研究材料として充分に利用されてはこなかった。

このたび、諸機関に散在する資料が集成され、ゆまに書房により『臨時報告』全巻が刊行されることとなった。これを機に、新たな研究の進展がおおいに期待されるところである。

対象として取り上げられている地域としては、やはり欧米の比重が高い。ただし、清国における諸地域の市況あるいは絹業・綿業・陶磁器などの産業に関する報告がかなりの数に上っている。また、朝鮮や「南方」各地に関する報告も散見される。

『臨時報告』は、われわれに、実習練習生たちが近隣アジア地域に対していかなる「まなざし」で臨んだのかを示唆してくれるだろう。欧米に派遣された者たちの「まなざし」との比較作業は刺激的である。それにくわえて、政策当局の当時の状況認識や戦略のありかたまでも垣間見させてくれる。対アジアおよび対欧米という複眼的文脈のなかで近代日本を捉えようとするとき、この資料集は不可欠の研究素材を提供してくれると考える。幅広い分野の研究者の方々にお薦めしたい。

直接的な海外情報が必要と実業練習生

京都大学人文科学研究所助教授

籠谷 直人

『農商務省商工局臨時報告』（一八九七～一九〇五年）の存在は、『明治期農商務省刊行文献目録』（未定稿、財団法人日本農業研究所、一九七七年三月）から確認していたが、すべてを所蔵している機関は希少であり、今回、この報告書が復刻されたことの意義は大きい。

農商務省（一八八一年設置）は、海外貿易の振興を目的に海外情報の収集にとりかかるが、その多くは、外務省通商局を通じた間接的な情報受容方法であった。領事のような出先機関をもたない農商務省にあつては、間接的な海外情報の収集を余儀なくされた。そこには、領事の調査能力の限界などの問題があり、農商務省としては、直接に専門調査官を派遣する必要があつた。そして、農商務省が直接の派遣経費を通して、独自に海外情報の収集にあたらせただのが、この海外実業練習生たちであった。商工業者に練習生を推薦させ、補助金を給付して、彼らに海外の実業の練習にあたらせさせた。その報告書が『農商務省商工局臨時報告』であり、調査者の関心を強く反映した個性的な調査内容になっていた。海外実業練習生の氏名は、『実業練習生一覧表』（農商務省商工彙報）一九〇六年（六号）から確認できる。また、調査には海外実業練習生のほかに、視察員、嘱託員、商工学校の教員、企業の技師なども関係していた。

報告のなかには、欧米の絹業の報告書が多くみられ、欧米への生糸輸出拡大の意欲を強く感じさせるが、他方で、アジア地域を対象にした貴重な情報も提供している。私が興味深く読んだ「英領印度商工業視察報告」（根本正稿、一九〇〇年、第八冊）は、ボンベイの棉花輸出商の実態を伝えて、極めて興味深い資料であった。しかし、その後に読む機会を得た、ボンベイで刊行の英字通商雑誌記事が極めて近似的な内容を掲載しているのを確認して、練習生がそうした刊行雑誌情報に強く依存していたのではないかと推察するようになった。派遣されたながらも、直接に現場に接近できず、市中の新聞雑誌記事を読むばかり読む練習生の姿が見えてくるようだ。

美術工芸分野の研究資料として

実践女子大学講師

田島奈都子

農商務省が所管した海外実業練習生の派遣事業と美術界との間に結びつきがあることは、にわかには信じられないかもしれない。しかし、横山大観、自瀧幾之助、高村光太郎、津田青楓、澤田宗山：という、わが国の近代美術界にさん然と輝くビツク・ネームが、この制度を利用して海外留学を果たしたことを知れば、この派遣事業と日本の美術工芸界の発展には関係があつたことが窺い知れるであろう。

戦前期のわが国において、美術工芸品は欧米先進国に対する重要輸出品であり、その存在は生糸、茶と並ぶものであった。このため、美術工芸の振興は国家の命題である「殖産興業」にかなうものであり、その制作は国家を支える「産業」として農商務省によっても支援されていた。そしてそれが後年、海外実業練習生として彼らを派遣することにつながったのである。

もともと、美術工芸界から派遣された練習生の数は、全体からすると、ごく少数にしかすぎない。しかし、20代半ばから30代半ばに、主に欧米に渡った彼らは、将来を嘱望されたス界のエリートであり、どの分野を修めたい人物よりも後世に名を残していることも事実である。なぜなら、帰国後の彼らは、第一線の作家として活躍する傍ら、後進の指導にも尽力し、今日に至るわが国の美術工芸界を支えた重鎮となったからである。

そうした人物を輩出した海外実業練習生の派遣制度と、彼らが残した各種「報告」が掲載された『農商務省商工局臨時報告』とその継続誌の存在は、個々人の作家としての成長過程を知る手がかりとして興味深いばかりか、美術工芸が「産業」として、また「作品」が「製品」として国家に見なされ、助成されていた事実を物語る資料として重要である。今回の復刻によって今後のさらなる研究の発展が期待される分野でもある。

な分野の研究に不可欠な第一級資料！

『内外商工時報』（159冊）
（1917年1月～1940年6月）
（第4巻第1号～第27巻第6号）

作図：田島奈都子

各巻収録一覧

- 「農商務省商工局臨時報告」第1巻
欧米絹織物状況視察報告（福井県絹織物組合派遣員・村野文次郎・明治30年3月25日）／漆器試験報告（東京工業学校漆器試験主任助教・太田能寿／東京工業学校金具試験主任助教・木戸傳・明治30年4月5日）／清国新開港杭州府商工業報告（在寧波北米合衆国領事・ジョン・フハウラー・明治30年5月18日）／墨西哥、中米、南太平洋沿岸商工業視察報告（根本正・明治30年5月20日）／在外本邦人店舗調査書（在外帝国領事・明治30年5月18日）
- 「農商務省商工局臨時報告」第2巻
伊国麦稈真田及帽子業ノ状況（明治31年3月7日）／清国漢口港商工業視察復命（諸井六郎〈領事官補〉・明治32年5月31日）／清国絹織物業ニ関スル報告 清国杭州ニ於ケル織物報告第一回（坂本菊吉・明治32年5月29日）／在墨西哥府本邦商品見本陳列所ノ見本品ニ就テノ品評及市況報告（在墨西哥帝國總領事・明治32年8月6日）／陶磁器焼成ノ燃料ニ石炭ヲ用ユル試験成績報告（東京工業学校教授・細木松之助／品川白煉瓦製造所技師・海老名龍四／東京工業学校嘱託教員・平野耕輔／東京工業学校・瀧田岩造・明治32年6月12日）／清国絹織物業視察復命書（小此木藤四郎・明治32年11月7日）／明治三十二年「千八百九十九年露西亞万国園芸博覧会視察報告書」（内匠寮技師・福羽逸人・明治32年12月18日）／「ボルネオ」、「ジャバ」並ニ「スマトラ」ノ石油地視察略報（神保小虎・明治32年12月20日）／日本絹物、雜貨、屑掛ニ関スル報告（林温吉・明治33年1月20日）
- 「農商務省商工局臨時報告」第7巻
在馨谷商品標本陳列所報告（在馨谷商品標本陳列所・明治34年5月21日）／米國木綿織物業ニ関スル報告書（永井米藏・明治34年5月20日）／独逸兩國ニ於ケル硝子製造業ニ関スル報告書（渡辺明・明治34年8月5日）／陶磁器焼成ノ燃料ニ石炭ヲ用ユル第二回試験報告（東京工業学校・明治34年8月12日）／米國ニ於ケル絹織物商況報告（秦敏之・明治34年8月25日）／米露石油ニ関スル機械器具ノ製作並ニ使用法調査報告（嘱託員 日本石油株式会社新潟鐵工所長・笹村万藏・明治34年9月20日）／清国蠶糸業ニ関スル報告書（森木長・明治34年9月25日）／清国蠶業視察復命書（瀬戸陶器学校長・黒田政憲・明治34年10月2日）／宜昌重慶間荷物運送並ニ重慶市場概況報告（石塚豊次郎・明治34年11月15日）
- 「農商務省商工局臨時報告」第8巻
花筵商業ニ関スル報告（犬丸鉄太郎・明治35年3月1日）／在清国沙市農商務省商品陳列所報告書（明治35年3月15日）／滿州産並ニ外埠ヨリノ輸入紙類ニ関スル報告書（田村忠一／莊村秀雄・明治35年3月31日）／麦稈真田商業ニ関スル報告（犬丸鉄太郎・明治35年5月16日）／清国浙江省沿岸商況調査第一回報告（稻石謙蔵・明治35年6月2日）／北米合衆國ニ於ケル亜硫酸木原質製造ニ関スル報告書（中山高吉・明治35年6月3日）／比律賓群島改正海關稅則書（明治35年6月10日）／米國ニ於ケル陶磁器商業ニ関スル報告書（葛原猪平・明治35年6月7日）／露西亞實業報告（鳥居忠恕・明治35年6月21日）／露國及西比利亞商況調査報告書（第二編第一章第三編第一章及第二章）（嘱託員・下村房
- 「農商務省商工局臨時報告」第12巻
在孟買帝國商品見本陳列所ノ状況（在孟買商品見本陳列所・明治37年3月7日）／広東ニ於ケル輸入紙卷煙草（肥田玄次郎・明治37年3月7日）／西伯利亞ニ於ケル本邦製茶（桶瀬登・明治37年3月7日）／瓜哇貿易事情（高橋寅吉・明治37年3月7日）／鎮江ニ於ケル雜貨商況（山田彦松・明治37年3月7日）／江西省城（南昌）事情（山田彦松・明治37年3月7日）／パナマ運河視察報告（嘱託員・峰岸繁太郎・明治37年3月7日）／滿洲ニ於ケル製粉事業ノ現況（中井國太郎・明治37年4月19日）／サロニカ港視察一斑（君士担丁堡私設商品陳列所・明治37年4月19日）／梧州情況一斑（肥田玄次郎・明治37年4月19日）／北米合衆國ニ於ケル銅業ノ概況
- 「農商務省商工局臨時報告」第12巻
滿洲ノ穀類輸出港ノ状況（大庭景秋・明治36年9月18日）／歐洲ニ於ケル海外皮革原料（殊ニ牛皮）ニ関スル報告（土居川佐一郎・明治36年9月18日）／君士担丁堡私設商品陳列所報告（在君士担丁堡私設商品陳列所・明治36年9月18日）／京城商品陳列所季報（京城商品陳列所・明治36年9月18日）／北米合衆國ニ於ケル花筵商業（松田卯三郎・明治36年11月17日）／沙市陳列所ノ状況（沙市商品見本陳列所・明治36年11月17日）／清韓兩國ニ於ケル本邦「セメント」ノ販路（嘱託員・内海三貞・明治36年11月17日）／和式製紙業ニ関スル意見（農商務技師・佐伯勝太郎・明治37年2月13日）／墨西哥市ニ於ケル日本雜貨ノ商況（森醇一・明治37年2月13日）／君士担丁堡商品陳列所ノ状況（明治37年2月13日）／独逸國ニ於ケル蠟布製造法（武藤朝之助・明治37年2月13日）
- 「農商務省商工局臨時報告」第7巻
在馨谷商品標本陳列所報告（在馨谷商品標本陳列所・明治34年5月21日）／米國木綿織物業ニ関スル報告書（永井米藏・明治34年5月20日）／独逸兩國ニ於ケル硝子製造業ニ関スル報告書（渡辺明・明治34年8月5日）／陶磁器焼成ノ燃料ニ石炭ヲ用ユル第二回試験報告（東京工業学校・明治34年8月12日）／米國ニ於ケル絹織物商況報告（秦敏之・明治34年8月25日）／米露石油ニ関スル機械器具ノ製作並ニ使用法調査報告（嘱託員 日本石油株式会社新潟鐵工所長・笹村万藏・明治34年9月20日）／清国蠶糸業ニ関スル報告書（森木長・明治34年9月25日）／清国蠶業視察復命書（瀬戸陶器学校長・黒田政憲・明治34年10月2日）／宜昌重慶間荷物運送並ニ重慶市場概況報告（石塚豊次郎・明治34年11月15日）
- 「農商務省商工局臨時報告」第8巻
花筵商業ニ関スル報告（犬丸鉄太郎・明治35年3月1日）／在清国沙市農商務省商品陳列所報告書（明治35年3月15日）／滿州産並ニ外埠ヨリノ輸入紙類ニ関スル報告書（田村忠一／莊村秀雄・明治35年3月31日）／麦稈真田商業ニ関スル報告（犬丸鉄太郎・明治35年5月16日）／清国浙江省沿岸商況調査第一回報告（稻石謙蔵・明治35年6月2日）／北米合衆國ニ於ケル亜硫酸木原質製造ニ関スル報告書（中山高吉・明治35年6月3日）／比律賓群島改正海關稅則書（明治35年6月10日）／米國ニ於ケル陶磁器商業ニ関スル報告書（葛原猪平・明治35年6月7日）／露西亞實業報告（鳥居忠恕・明治35年6月21日）／露國及西比利亞商況調査報告書（第二編第一章第三編第一章及第二章）（嘱託員・下村房

★研修生はエリートが多数。

★国際関係の動向の中、いかにして日本の近代化が展開したか。

『海外実業練習生派遣報告』について 田島奈都子

今回復刻される『海外実業練習生派遣報告』とは、農商務省商工局によって一八九七年一月に創刊された『農商務省商工局臨時報告』とその継続後誌の総称である。

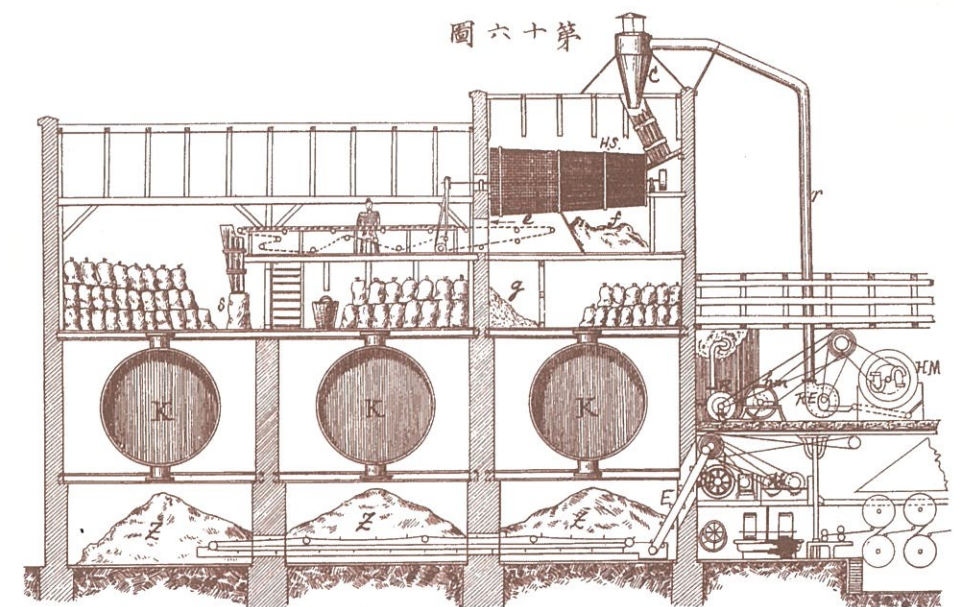
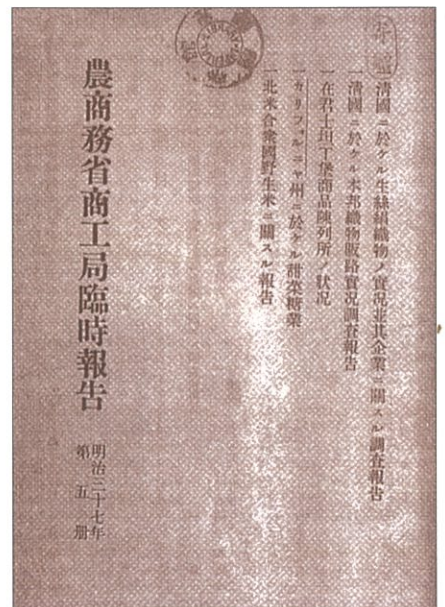
そもそも同誌は、同年から農商務省によって派遣が始まった海外実業練習生と海外実業視察官に義務づけられていた貿易や現地の産業に関わる最新情報、及び同省が管轄する各地の試験場の試験結果等を掲載する目的で創刊されたものであり、当初はあくまでも「臨時」的なものであった。しかし、誌名を変えながら、大枠では終始農商務省（一九二五年以降は商務省）によって編集発行された同誌は、結果的に一九四〇年6月の終刊までの四十四年間に約五〇〇冊が継続発行され、今日から見ると、その存在は戦前期のわが国の産業や貿易政策に関わる情報をリアル・タイムに報じた、第一級の「経済資料」といえる。ただし、実際に報告義務のあった練習生や視察員の専門領域は多岐に渡っており、その他掲載された記事内容も広範囲に及んでいる。このため、誌上に掲載された各種図版や統計資料も含め、同誌は単に「経済資料」としてのみ認識するにはあまりある存在でもあり、さまざまな分野における同時代資料としての活用が可能である。

なお、一八九七年一月に創刊された「農商務省商工局臨時報告」は、一九〇五年五月からは「農商務省商工彙報」、十四年一月からは「貿易時報」、十七年からは「内外商工時報」と改題し、以降四十年六月まで継続されたが、『貿易時報』への改題に際しては、農商務省商品陳列館が発行していた「農商務省商品陳列館報告」との合併改題であり、このことについて簡単に触れておくことにする。

「農商務省商品陳列館報告」とは、一八九六年に

農商務省によって東京・築地に設立された同館（設立時は農商務省貿易品陳列館と称し、翌年改称）の機関誌であり、その創刊は一九〇五年六月まで遡る。ただし、そもそも同誌の創刊号は「農商務省商工局臨時報告」から改題した「農商務省商工彙報」の「号外」として発行されており、掲載された記事の一部は練習生や視察員からもたらされたものであった。これには、貿易促進とその他の国内産業の振興を図る機関として、農・商・工に関わる商品見本やその原材料の展示、及び各種マーケティング情報の収集と発信に従事することが求められ同館が、練習生や視察員の「存在」と、彼らがもたらす「情報」をその源として利用していたことが大きく関係している。そして、それを可能にしたのは、練習生と商品陳列館を所管する機関が、共に農商務省商工局であったことによる。つまり、両者とそれぞれの機関誌は、当初から双子のような関係にあり、それゆえ一九一四年二月からは両誌が合併改題し「貿易時報」となったのである。なお、農商務省商品陳列館の編集発行による刊行物は「農商務省商品陳列館報告」が最初ではなく、それ以前に系譜となるものが存在しており、それらを含めた「農商務省商工局臨時報告」から「内外商工時報」に至る誌名の変遷は左上に記した通りである。

残念ながら、「農商務省商工局臨時報告」とその継続後誌は、これまで全編を通して閲覧出来る機関がなかったため、その存在はあまり知られず、活用も十分なされていなかった。しかし、多岐にわたる重要な情報がリアル・タイムで掲載された同誌は、戦前期の研究にとってはなくてはならない必読の資料であり、今回の復刻は各分野における同誌の利用と、研究のさらなる発展を促す、貴重な試みといえる。



経済史、日本近代史、地理地誌、異文化交流、国際関係史、美術工芸史等、広範

『農商工公報』(46冊)
(1885年3月～1888年12月)

『農商省商工局臨時報告』(111冊)
(1897年1月～1905年3月)
(明治30年第1冊～38年第5冊)

『農商務省商工彙報』(103冊)
(1905年5月～1913年12月)
(明治38年第1号～大正2年第13号)

合併

『貿易時報』(35冊)
(1914年2月～1916年12月)
(第1巻第1号～第3巻第12号)

農商務省工局の
逐次刊行物の変遷

『農商務省商品陳列館臨時報告』(2冊)
(第1号は1898年2月、第2号は同年4月)

『農商務省商品陳列館週報』(?)
(1898年8月～?)

『農商務省商品陳列館案内』(1冊)
(1900年4月～?)

『農商務省商品陳列館報告』(71冊)
(1905年6月～1914年1月)
(第1号～53号、第1号～18号)

●『農商務省商工局臨時報告』第3巻
韓国及浦沙斯德商工業取調報告書(松原栄・
明治33年1月19日)／清国景徳鎮磁器視察報
告(京都市陶磁器試験所長・藤江永孝・明治
33年2月3日)／清国陶磁器産地視察報告
(京都市陶磁器試験所長・藤江永孝・明治33
年2月3日)／欧米産業「トラス」二関ス
ル取調報告(欧米商工業取調員・高橋光
威・明治33年2月26日)／北米合衆国石油事
業取調第一回報告書(高野新一・明治33年3
月17日)／米國ニ於ケル花産商業二関スル報
告(犬丸鉄太郎・福原八郎・明治33年3月29
日)／第二回清国絹織物報告(坂本菊吉・明
治33年3月31日)／清国牛莊ニ於ケル本邦商
品見本品評報告(橋本龍吉・常念保平・莊村
秀雄・田村忠一・明治33年4月9日)／清国
牛莊ニ於ケル金融事情報告(橋本龍吉・常念
保平・莊村秀雄・田村忠一・明治33年4月9
日)

●『農商務省商工局臨時報告』第4巻
英領印度商工業視察報告(根本正・明治33年
5月14日)／清国漢口ニ於ケル雜貨商況報告
(牛嶋正巳・明治33年5月25日)／独逸国陶
磁器業ノ概況報告文部省留學生東京工業学校
助教授・平野耕輔・明治33年5月25日)／工
業図案法改良意見図案師・井手馬太郎・明治
33年5月25日)／在新嘉坡商品見本品陳列所報
告(明治33年6月18日)／伊国「コモ」市絹
業博覧會視察報告(絹織物業・今西平兵衛／
染業・高松長四郎・明治33年7月27日)／独
乙國ニ於ケル窯業(殊ニ土管、煉瓦、敷瓦)
二関スル報告(大高庄右衛門・明治33年8月
13日)／北米合衆国石油事業取調ノ第三回及
第四回報告(高野新一・明治33年9月20日)／
北米合衆国ニ於ケル麦稈商業二関スル報告
(犬丸鉄太郎・明治33年8月31日)／北米合衆
国石油事業取調第五回報告(高野新一・明治
33年10月21日)／重慶ニ於ケル日本雜貨商況
第一回報告(石塚豊次郎・明治33年11月
19日)／上海ニ於ケル日本雜貨商況第一回報告
(稻石謙蔵・明治33年11月19日)／北米合衆国
石油事業取調第六回報告(高野新一・明治33
年11月30日)／牛莊貿易ニ関スル奉天府視察
ノ一斑報告(橋本龍吉・莊村秀雄・田村忠
一・明治33年12月10日)／米國ニ於ケル麦稈
商業ニ関スル第二回報告(犬丸鉄太郎・明治
33年12月17日)

●『農商務省商工局臨時報告』第5巻
英国ブラックバーン市ニ於ケル本綿織物業ニ
関スル報告(永井米蔵・明治34年1月25
日)／清国絹織物事情第三回報告(坂本菊
吉・明治34年1月17日)／藍染試験報告(東
京工業学校助教授・野嶋信實・明治34年1月28
日)／「オデッサ」ノ概況及其日露貿易トノ
關係(日露貿易視察員・江崎榮造・夏秋
亀一・明治34年2月12日)／海外絹織物調査
報告(嘱託員・杉田定一・明治34年2月13
日)／伊仏絹業視察報告(栃木県足利郡足利
町・磯部安次郎・栃木県足利郡足利町・近藤
徳太郎・明治34年4月1日)

★技術習得や需要状況、商取引など
の情報収集。

●『農商務省商工局臨時報告』第6巻
在新嘉坡商品陳列所報告(新嘉坡帝國領
事・明治34年2月25日)／絹織物業ニ関ス
ル報告(泰敏之・明治34年3月11日)／欧米
織物業視察報告書(嘱託員・福井県絹織物同
業組合副組長・松井文太郎・明治34年3月9
日)／花産商業ニ関スル報告書(福原八郎・
明治34年3月30日)／露國聖彼得堡ニ於ケル
日本品商況(夏秋亀一・明治34年4月13
日)／花産商業ニ関スル報告書(犬丸鉄太
郎・明治34年5月10日)／独逸兩國玻璃並磁
器業調査報告書(文部省留學生・東京工業学
校助教・平野耕輔・明治34年5月25日)

●『農商務省商工局臨時報告』第9巻
東清鐵道附近商況視察報告(莊村秀雄・明治
35年8月15日)／清國ニ於ケル紡績業ノ概況
(嘱託員・日置藤夫・農商務技師・小西正
二・明治35年8月16日)／米國ニ於ケル花産
及麦稈真田商業ニ関スル報告書(米國文学
士・犬丸鉄太郎・明治35年9月1日)／北米
合衆国ニ於ケル米作ニ関スル調査報告(農学
士・森・広・明治35年11月26日)／西江一帯
各地商況ノ踏査報告書(杉山常喬・明治35年
12月10日)／米國製絹業ニ関スル第一回報告
(岩永秀三郎・明治35年12月17日)／欧州内
ニ於ケル皮革原料(特ニ牛革)ニ関スル報告
(土居川佐一郎・明治35年12月20日)／墨西
哥ニ於ケル竹細工品ニ関スル報告(森醇一・
明治35年12月20日)／清国江蘇、浙江兩省ニ
於ル蚕業報告書(関貞江・明治35年12月20
日)／滿洲貿易ノ状況(神村源之助・明治35
年12月20日)／広東藥品ノ商況(肥田玄次
郎・明治35年12月20日)／千八百九十五年ニ
於ケル独逸帝國職業及營業調査報告書(嘱託
員・法学士・高野岩三郎・明治35年12月21
日)

★派遣先は欧米を中心に南米、アジ
ア地域にも派遣。

●『農商務省商工局臨時報告』第10巻
棉花業ニ関スル報告(一)犬丸鉄太郎・明
治36年1月26日)／土耳其貿易ノ概況(在コ
ンスタンチノープル私立商品陳列所・明治36
年1月26日)／北部滿洲毛皮業視察報告(大
庭景秋・明治36年1月26日)／湖南省情况一
班(平賀深造・明治36年1月26日)／海外ニ
於ケル蚕糸製茶状況視察復命書(農商務技
師・紫藤章・明治36年2月6日)／麻尼拉ニ
於ケル本邦輸入重要商品ノ情况(加藤主計・
明治36年3月31日)／長沙、漢口間ニ於ケル
汽船業ノ現況(大森松四郎・明治36年3月31
日)／日墨間ノ商業關係(森醇一・明治36年
3月31日)／麻尼拉輸入米近況報告(加藤主
計・明治36年3月31日)／滿洲諸城市視察報
告(大庭景秋・明治36年3月31日)／紐育
「シンガー」製造会社ニ関スル報告(泰敏
之・明治36年3月31日)／比律賓島稅関通関
手續上本邦出荷主ノ注意事項(加藤主計・明
治36年3月31日)／滿洲ニ於ケル本邦茶ノ販路
(阿部野利泰・明治36年3月31日)／滿洲麻
ノ情况(中井国太郎・竹内徳太郎・明治36年
3月31日)／兩広事情(肥田玄次郎・明治36
年3月31日)／ルイジアナ州ニ於ケル甘蔗糖
業(澤全雄・明治36年3月31日)／秘露ニ於
ケル帽子並燐寸商業ノ情况(松本賢吉・明治
36年3月31日)／独逸ニ於ケル製紙業ノ情况
(船水武五郎・明治36年5月19日)／君士坦
丁堡府私設商品陳列所ノ状況(明治36年5月
19日)／重慶上流ニ於ケル重ナル市場ノ商況
(石塚豊次郎・明治36年5月19日)／独逸ニ
於ケル「セメント」業ノ情况(篠崎友三・明
治36年5月19日)／牛莊港ノ通貨及金融事情
一班(竹内徳太郎・中井国太郎・神村源之
助・明治36年5月19日)

●『農商務省商工局臨時報告』第11巻
第五回清国絹織物事情報告(坂本菊吉・明治
36年6月30日)／清国蘇州絹織物売買ノ情况
(川津弘・明治36年6月30日)／清国浙江省
ニ於ケル生繭売買ノ情况(関貞江・明治36年
6月30日)／墨西哥國關稅率並同國生産品ノ
市價表(森醇一・明治36年6月30日)／第一
回万国服裝及附属品大博覧會報告(嘱託員・
下村房次郎・明治36年7月24日)／シカゴ市
ニ於ケル郵便利用店事情(農学士・森・広・
明治36年8月20日)／營口ニ於ケル豆餅製造
業ノ状況(中井国太郎・明治36年8月20
日)／清國ニ於ケル綿糸ニ関スル視察報告
(嘱託員・岡本貞休・明治36年9月18日)／

★各種産業の製作技術や商取引か
ら美術工芸に至る幅広い分野。

●『農商務省商工局臨時報告』第13巻
韓国ノ製造業(露國大蔵省編纂「韓国誌」抄
訳・明治37年10月12日)／千九百三二ニ於ケ
ルスラバヤ港ノ商業(後藤賢一・明治37年10
月12日)／独逸ニ於ケル「セメント」工場視
察報告(篠崎友三・明治37年10月12日)／米
國向漆器(岩本茂三郎・明治37年11月12
日)／米國棉作近況(岡原時三・明治37年11
月12日)／ルイジアナ州ニ於ケル甘蔗糖業
(松江春次・明治37年11月12日)／擦絲及絹
織物業(岩永秀三郎・明治37年11月12日)／
木纖維製紙業(船水武五郎・明治37年11月12
日)／独逸ニ於ケル「ポルトランド、セメン
ト」工業ノ發達(篠崎友三・明治37年11月12
日)／遼陽情况一斑(在牛莊農商務省商品陳
列所・明治37年11月28日)／香港、上海、漢
口、広東ニ於ケル時計業ノ概要(嘱託員・吉
田耕造・明治37年11月28日)／日暹間交通概
要(肥田玄次郎・明治37年11月28日)／孟買
ニ於ケル日本絹織物概況(入江甚三郎・松本
菊次郎・明治37年12月15日)／緬甸ノ外國貿
易「殊ニ織物、玻璃、陶器、洋傘ニ就テ」
(林・梁・明治37年12月15日)／南清並仏領
印度ニ於ケル硝子業視察復命書(嘱託員・渡
邊朝吉・嘱託員・上杉正八・明治37年12月15
日)／墨西哥貿易(市川寛太・明治38年1月
18日)／中米貿易(峰岸繁太郎・明治38年1
月18日)／英國ニ於ケル鉄工業(今井達雄・
明治38年1月18日)／北米合衆国商工務省ノ
組織及事務「商工務卿第一回年報抄訳」(ジ
ョージ・ビー・コルテルユー・明治38年2月
25日)／独逸ニ於ケル近世外國貿易政策(嘱
託員・戸田海市・明治38年2月25日)／天津
ニ於ケル外國貿易ノ概況(坂田長平・明治38
年2月25日)／土耳其ニ於ケル本邦品ノ需要
(在コンスタンチノープル私設商品陳列所・
明治38年2月25日)／列國ノ貿易政策中独乙
帝國ノ占ムル地位(嘱託員・戸田海市・明治
38年3月31日)／独逸帝國ノ二重稅率(嘱託
員・戸田海市・明治38年3月31日)／清韓地
方絹織物商況視察報告(嘱託員・田中善次
郎・明治38年3月31日)／聖路易世界博覧會
出品ニ関スル工芸意匠図案報告(濱訓良・
明治38年3月31日)／米作麦作地方重要程度
(統計課長・吳文聡・明治38年3月31日)／
対米陶磁器貿易(西浦猪三郎・明治38年3月
31日)／ナタール貿易事情(片桐政治・明治
38年3月31日)

入綿布類ニ関スル報告書(莊村秀雄・田村忠
一・明治35年7月31日)